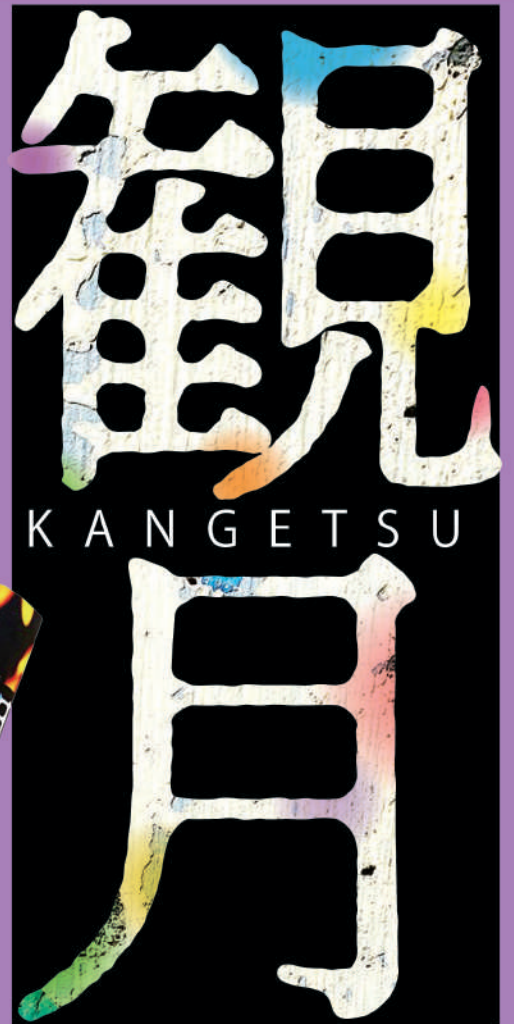


それは  
不連続殺人事件に  
なるはずだった……

# 麻生 幾



2020年  
12月16日  
発売

定価●本体1700円+税  
総頁●432頁

写真●大分県杵築市観光協会

著者への取材等  
お問い合わせ先

株式会社 文藝春秋  
〒102-8008  
東京都千代田区紀尾井町3-23

地方の静かな城下町  
で突如沸き起こった殺人  
事件。その謎を追ううちに、  
予想もつかなかった巨大な陰  
謀が姿を現わす。

「観月祭」、今年も  
無事に迎えられるはずだった。しかし、祭  
りの一週間前、突如として七海を襲った怪  
しい影。その翌日には七海が幼いころから  
お世話になっているパン屋の奥さんが絞殺  
体で発見される。さらには、この事件と時  
を同じくして東京で発見された  
首なし死体との関連  
が取りざたされ……。

## Profile

**麻生 幾** (あそう・いく) 大阪府生まれ。作家。1996年、政府の危機管理システムの欠陥を衝いたノンフィクション『情報、官邸に達せず』を刊行し、作家デビュー。日本の危機管理をめぐる“真実”を小説で描く一方、オウム事件など内外の事件を取材したノンフィクション作品も発表。主な小説に、『宣戦布告』『ZERO』『外事警察』『奪還』『トツ!』など。「宣戦布告」「外事警察」などが、映画化、ドラマ化され反響を呼んだ。ノンフィクション作品に、『極秘捜査—政府・警察・自衛隊の[対オウム事件ファイル]』『前へ!—東日本大震災と戦った無名戦士たちの記録』などがある。

『外事警察』の著者が  
放つ  
圧巻の警察小説

あらすじ